

半田高校 SSH アソシエイト事業 刈谷・岡崎・西尾 4 校合同 Global Studies Program

※ 昨年度までの「エンパワーメントプログラム」の名称改変



実施日程：2023 年 7 月 31 日 (月)～8 月 4 日 (金)  
午前 9 時～午後 3 時 5 日間

実施場所：愛知県立刈谷高等学校

企画実施：(株) ISA

参加者：半田 (22 名)、刈谷 (55 名)、岡崎 (6 名)  
西尾 (6 名)、計 89 名

ファシリテーター2 名：USA、UK

グループリーダー (招聘大学生)：15 名—USA 5 名、カナダ 3 名、South Africa, Afghanistan, China, Montenegro, Indonesia, Ghana, Pakistan 各 1 名

3 年前のコロナ禍に始まった 5 日間の国内英語研修 (エンパワーメントプログラム) は、今年度名称を変え、トピックについてより深く考えられるような内容にマイナーチェンジを行った。

	午前	午後
1 日目	アイスブレイキング、 自己紹介、プログラムとゴール設定	テーマ：SDG's と Visual Thinking Strategies 「観察力」「批判的思考力」「コミュニケーション力」
2 日目	ウォームアップアクティビティ テーマ：Design Thinking 問題解決のための思考法、日本が抱える問題に対する解決法を探る、ニーズの発見	
3 日目	ウォームアップアクティビティ テーマ：Storytelling アイデアを効果的に立てるためのスキル。2 日目のアイデアを Storytelling Skill でプレゼン	
4 日目	ウォームアップアクティビティ テーマ：グループリーダーの国の SDG s に関する問題を直にきいてその問題を解決する このプログラムで学んだ 3 つの思考法を用いて、問題を見つけその問題の解決策を考え 最終日のプレゼンテーションの準備	
5 日目	ウォームアップアクティビティ グループごとに最終プレゼン Q & A とフィードバック	ディスカッション SDG s と自分の将来の進学やキャリアと 結びつける 各ファシリテーター、グループリーダー、グループメンバーからのコメント

今年度は国内の大学に在学中の院生（東京大、東京海洋大、埼玉大、豊橋技術大、筑波大、東京農業大）に加え、アメリカ合衆国とカナダの大学からこの夏に直接このプログラムに参加した。

今年度も参加者が多いため、2つの教室に分かれ、グループのメンバーも各校の生徒の割合を均等にして他校の生徒とディスカッションが活発にできるように配慮された。



プログラムを通じて5~6人に一人グループリーダーが配置され、そのリーダーの下で毎回グループディスカッションと協働発表を行う。配属されたリーダーは、全てのグループを順番に回り、各テーブルの生徒の発話を促すだけでなく、様々な情報や経験から生徒がアイデア表現しやすいように、いろいろなインセンティブを用いてメンバーの興味・関心・発案・発話を引き出していた。

グループディスカッションの間は、全く日本語を使わず全て英語で行われる。最初は戸惑っていても、周りに刺激され自分の考えをまとめたり、発言したり、協働して課題に取り組む中で最終日には5日間を通じた自分の変化を気づくという、英語漬けの5日間。



昨年度までのエンパワーメントプログラムは、主に「自分とは何か」の問いと、そこから「何ができるか」という幅広い解釈のできるものが中心であったが、もっと深く考えるプログラムという要望に応じて、様々な思考プロセスのスキルを用いて、批判的思考力、問題解決力、異文化コミュニケーション力を身に着けるのに役立つテーマとマイナーチェンジを行っている。そのため名称も Global Studies Program と変えてこれまでより1段階上のプログラム編集となったが、半田高校の1年生も刈谷高校など他校

の生徒に刺激をうけ、積極的に発言や発表をし、物おじせずに積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢がおおいに伺われた。

各学校では、4年ぶりに海外研修プログラムも再開し始めたが、短期間の海外研修プログラムとは異なる、より深い視点や多角的にものをみる力を養うアンテナ作りに大いに貢献した。